

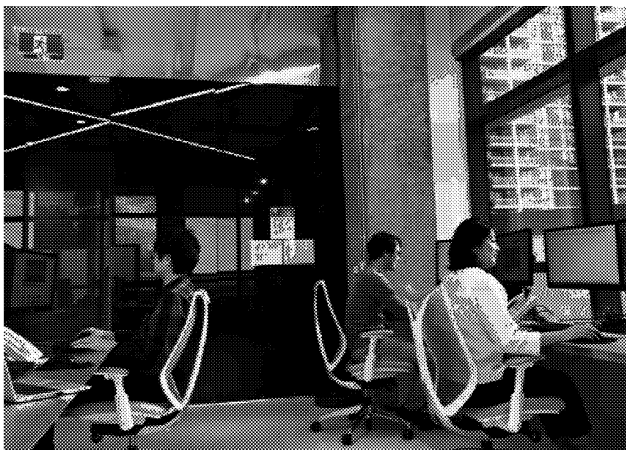
# 中小向けにDB監視

データベースの運用・保守の支援を手掛けるコーソル（東京・千代田）は中小企業向けのデータベース監視サービスを開発した。コーソルの従業員がデータベース監視ツールを活用し、遠隔で顧客企業のデータベースを管理する仕組み。中小企業では専門の技術者がいない場合もあり、遠隔でのデータベース監視サービスへの需要は大きいと判断した。2019年12月期で30件の受注を見込む。

## コーソル

データベース監視サービス「リモートDBA」であり、中小企業が専門技術を持つデータベースの販売を始めた。コーソルによると、IT（情報）

## 技術者不足で需要 24時間 遠隔操作



カナダの拠点を活用し、24時間で中小企業のDBを監視する

このため中小企業ではデータ管理に詳しくない担当者に対応するケースもある。専門家ではないため、障害が発生した際

に解決まで時間がかかり、機会損失が生じるケースもある。コーソルが販売するサービスはオープンソースの監視ツール「Zabbix」

を廃止しながらサポートサービスを24時間提供する体制を確立した。新サービスはカナダの拠点

ix」を採用した。同社の担当者が同ツールを使って遠隔でデータベースを監視し、異常が発生した場合には専任エンジニアが対応するため、データベース障害による機会ロスを最小限に抑えられると見込む。

料金は監視ツールの導入で年156万円、監視ツールと遠隔操作による日中のトラブルに対応するサービスで年188万円。同社の試算ではデータベースの運用には年間921万円ほどのコストがかかるという、コーソルのサービスを導入すれば年間コストが5〜8割減少するとみる。

同社は9月、カナダに初めての海外拠点を設立。カナダとの時差を利し、日本での深夜勤務を廃止しながらサポートサービスを24時間提供する体制を確立した。新サービスはカナダの拠点

を活用しながら、中小企業のデータベースを24時間監視する。

コーソルの金山俊明社長は新サービスを通じて、「中小企業のデータベース管理者の負担軽減と運用コストの見直しにつなげたい」と話す。新サービスで20年12月期に100件の受注をめざす方針。売上高で1億円弱の事業に育てる。

（篠原英樹）